

# SIR2004 印象記

## 森本賢吾

奈良県立医科大学 放射線科

IVR 学会国際トラベルフェローの支援を受け、2004年3月25～30日に、米国アリゾナ州フェニックスで開催され

た2004・SIRに参加させて頂きました。

最も興味をもったのは、プレリミナリーセッションの中のThe World of intervention : IR in Oncologyでした。HCCがアメリカで増加していることもあり、HCCに対するRFAとTAE (TACE) が話題の中心でした。

Transarterial Therapies in the US という Jeff H. Geschwind, MD の講演では TAE に関する RCT についても触れ、よくデザインされた TACE では生存率が改善するということを主張されていました。また、The Korean Approach to HCC では Jae-Hyung Park が TAE を中心とした講演をされました。Segmental and Subsegmental TACE (我々の施設では Seg Lp-TAE, Subseg Lp-TAE と呼んでおり、当科の文献も参考文献として出されていました。)についても講演され、超選択的な TAE のスライドも

提示されていました。これらを聞いて  
いると世界的にも今後TAEはさらに  
注目され、発展していく治療であると  
感じました。しかし、HCCに対する治  
療が確立されている途中なのか、門脈  
腫瘍栓やTAE無効多発例に対してど  
う治療戦略を立てていくかという話  
は取り上げられていませんでした。RFA  
はヨーロッパの先生方が中心に講演  
していました。また、疼痛緩和のIVRが  
取り上げられており、なかでも椎体形  
成術が注目されていました。

その他は、ワークショップを中心に  
参加し、それぞれの分野で基礎的な知  
識の勉強ができました。ワークショップ  
のみの別冊が約500ページにもわた  
っており、その充実した内容に驚きま  
した。またCDも別売されており、IVR  
の教育にSIRが非常に熱心なのだと思  
いました。また、椎体形成術を学会で  
も広めようと考えているものと思われ、  
実際の透視下にシミュレーターを使っ  
た実技の講習も行われていました。

機器展示では、血管造影のシミュレ  
ーターに驚きました。実際に患者さん  
のモデルに挿入されたシースよりカテ  
ーテルの後ろがでており、ここを操作  
すると、モニターでカテーテルがその

動きに併せて動いているように見え  
ます。また、カテーテルの先端の形状も  
画面上で選択できます。この機械をみ  
て、実際には難しい血管解剖の症例に  
おいても、まずシミュレーターで経験  
しておいてから実際に臨床で施行す  
るといったことが出来れば便利だと思  
いました。またRFAの電極針では、展開  
型の針(RITA等)で凝固径が大きくと  
れるものも展示されていました。TAE、  
バルーン閉塞による血流低下により  
凝固径を大きくする工夫がなされて  
いますが、展開針が大きくなれば尚  
一層RFAの適応が広がることと考え  
ます。また、ここでも、椎体形成術の  
注目は高く、各種デバイス、セメント  
等の薬品が多数展示されていました。

学会ではありましたが、人生ではじ  
めてのアメリカでもありセドナに時間  
をみつけて行かせて頂きました。アメ  
リカの壮大な自然が目の前に拡がりた  
だ驚くばかりでした。

今回、吉川教授、山本先生は発表を  
持って学会に出られていましたが、  
日々精進し、2005.3.31 ~ 4.5にニュー  
オリンズで開催される、次回のSIRに  
は自分の発表をもって参加出来るよ  
うに頑張ろうと決意を新たにしました。

